

【モニタリング項目 ID1 : 気象データの測定】

1. モニタリング計画での位置づけ

- (1) 管理目標：0 基礎的環境情報が把握されていること
 (2) 評価項目：－
 (3) モニタリング項目：気象データの測定
 環境省担当分：気温、湿度、地温、降水量
 (4) 評価指標：1－
 (5) 評価基準：－

2. 調査箇所等

- (1) 調査箇所：西部地域の標高 0, 300, 500, 700, 900, 1200, 1400, 1600m
 東部地域の標高 1000, 1300m
 中央山岳部の標高 1500m
 (2) 調査頻度：60分毎
 (3) 調査内容：気象機器によりデータ取得

3. 使用機材とモニタリング地点

表 環境省 気象機器一覧(試験的運用として設置)

地温計 HOBO Pro V2 U23-003 (2012.1設置)	西部	大川の滝	0m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
		小楊子林道	300m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
		花山歩道	500m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
			700m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
			900m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
			1200m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
			1400m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
	1600m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり		
	東部	ヤクスギランド	1000m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
		淀川登山口	1300m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり
中央	新高塚小屋	1500m	継続	稼働中：故障による欠測期間あり	
温湿度計 HOBO Pro V2 U23-002 (2012.1設置)	西部	大川の滝	0m	継続	稼働中
		小楊子林道	300m	継続	稼働中
	中央	新高塚小屋	1500m	継続	稼働中
雨量計 KDC-501-JM TAMAPod LLUVIA2 (2019.12設置)	中央	新高塚小屋	1500m	継続	

※地温計はネズミ等による咬傷断線被害により2-3年に一度センサー交換や本体新品交換を実施。

4. 稼働状況、対応状況及び見直し検討案

①地温計 【調査継続】

- 山間部では内部結露が発生しやすく、基板のサビによる故障が多発、欠測が年間に数地点で生じる。
→運用中の機種の内側にシリカゲルを入れているが、密閉型ではないため万全ではない。
- 野生ほ乳類によるセンサーコードの断線が年に数地点発生した。

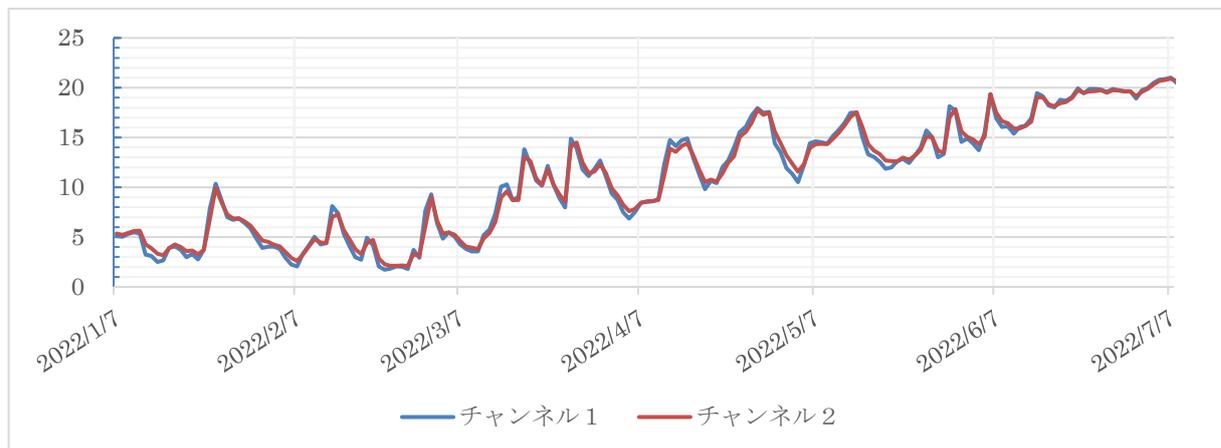
→対策として塩ビ管を土中に埋め込み、さらにコードカバーでセンサーコードを保護した。

ただし塩ビ管の引き抜きやコードカバーごとの断線がたびたび発生している。

・上記2点に伴い、年に2-3機故障しており、修理費用や交換費用が発生する。

→センサーコードを用いない完全防水型の機種(TidbiT MX2204)に順次移行する。

【地温データの一例】 ヤクスギランド 2022年1月7日～7月7日迄



元データより日平均気温を算出しグラフ化したもの

②温湿度計 【調査継続】

- ・大川の滝、小楊子林道(300m)、新高塚小屋裏(1500m)の3か所に設置。
- ・新機種に順次移行する。(MX2302A)

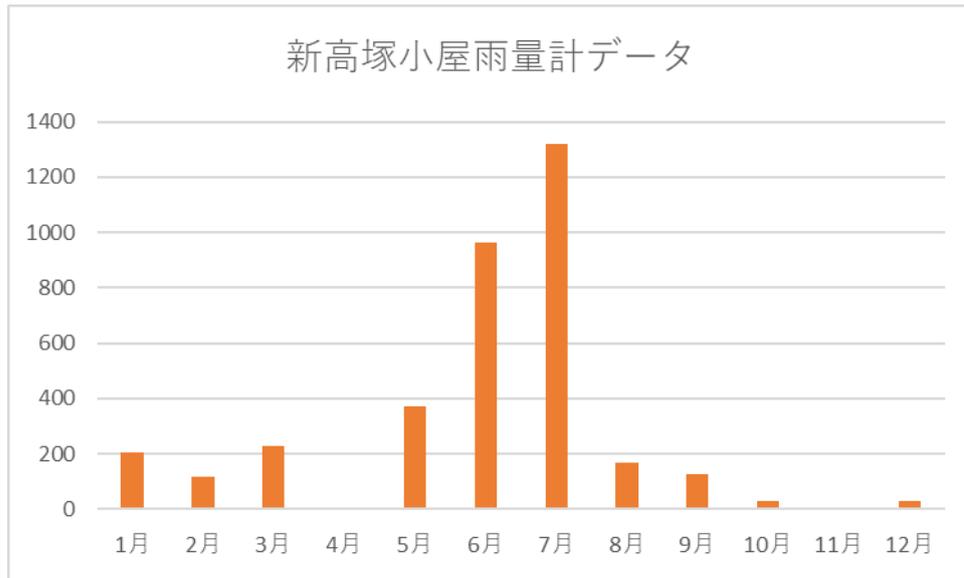
③雨量計 【新高塚小屋の降水量測定】

- ・2019年12月より計測。10分間、1時間、24時間、降り始めからの雨量の4項目を計測。
- ・本体は機密性の高いケースに入っているが、季節を問わず結露が生じやすいことが判明している。

【新高塚小屋雨量計データの一例】

2022年1月1日～12月14日迄 (3月18～5月20日まで一部欠測、10月15日)の月ごとの雨量

※機器の故障もあり数値に誤りがある可能性



(・2022年1月1日～12月14日までの年間雨量は3550.5mm、8月2日に降り始めからの最大雨量672mmを記録。)